



## 神社と四季 「改修を終えた朱の大鳥居」

広島県神社庁報 ふたば

二葉

第149号

発行所 広島県神社庁  
広島市東区二葉の里  
☎ (082) 261-0563  
FAX (082) 261-6628

謹みて皇統の弥栄と各御社頭の御栄を寿ぎ奉ります。

未だコロナウイルス感染症の収束が見えない中、神社の奉護運営に精

励を重ねられ新年をお迎への事と存じ上げ、日々のご奉仕に改めまして

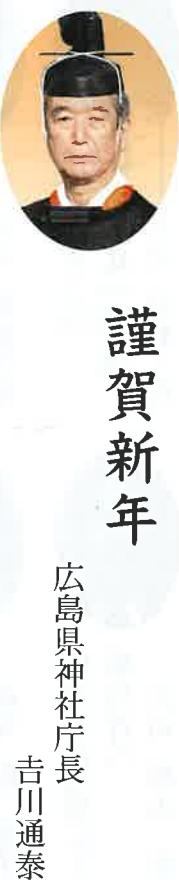
敬意を表します。

さて昨年を振り返りますと、先にクリミア半島を併合したロシアは、遂にウクライナ全土への侵攻を始めました。子供や女性誰彼の区別なく何千何万という国民が銃弾に斃れ爆撃に命を落とし、多くの人々が祖国を追われ命からがら難民として隣国へ逃れています。

しかし、強国に屈する事無くウクライナ国民は祖国防衛に敢然と立ち上がり、各地で善戦しロシア軍を押し返しております。祖國は自国民で守るしかなく、現状を武力でもつて変更しようとする隣国、専制独裁国家、反日国家に囲まれた我が国は、一刻も早く有事に備へる時を迎えており、遠い祖先から続く伝統、皇室を中心に国民が一致団結して国の独立を守り発展して来たことへの誇りを涵養すべく努力いたします所存です。

斯界の活動にも深いご理解を戴いておりました安倍元総理が凶弾に斃れられました事は誠に痛恨の極みに存じます。長年に亘りご指導戴きました数々を胸に、先生の目指された「美しい国 日本」へ向け今後の活動に取り組んでまいる次第です。

本年も、神社庁の諸施策に尚一層のご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げ、年頭に際し所感の一端を述べ挨拶といたします。



非公表

非公表

初詣の時しか神社に参拝しなかった私が、まさか神職の講習を受講することになるとは夢にも思いませんでした。十年前に実家に戻り、神楽団に所属したことを機に、祭典の奏楽をするようになりました。このことが切っ掛けで神職の講習を受講することになりました。神社との縁が薄い家庭で育つた私が、講習についているところになりました。このことが切っ掛けで神職の講習を受講することになりました。神式の授業の時に、自分の体に祭式の作法が、すでに身についていることに気が付きました。それは小学校一年生の時に始めた柔道の作法と同じであるということでした。その時、柔道場の正面に飾つてあった写真の嘉納治五郎先生（柔道の考案者）の神様への思いが、そして私達子孫へ受け継ぎたかったことが少しだけわかったような気がして嬉しかったです。

作法の共通性があるとはいえ、祭式の作法のほとんど動きは初めてで、なかなか習得できず苦労しましたが講師の先生方の丁寧な御指導により作法を習得し直階の資格を取得することができました。

他業種の仕事との兼ね合いもあり、権正階の講習会は何年後に受講できるものかと考えていた矢先、権正階の講習会が開催されるとの案内が届きました。大変悩みましたが、奉務神社の今後のことを考え、一年連続で受講することを決心致しました。

この度の講習会も、去年の直階検定講習会に引き続きコロナ禍のため三ヶ月に亘り甲乙丙の分割開催かつ通いという開催方式となりました。他業種の仕事をしている身としては大変ありがたい開催方式でした。受講生は十名ほどで、その中には私のように昨年の直階検定講習会からの流れで

お祭りの話を聞き、とても有意義な時間でした。授業以外の時間で受講生と話をしていますと、直階講習の時とは違う長い時間、神社へ奉仕をしておられる方も多いので気候、風土などで形の異なるお祭りの話を聞き、とても有意義な時間でした。

日々の日課として国旗掲揚に始まり朝拜、授業、国旗降納、夕拜が行われました。授業では祭式を中心に関学、法規、祝詞、神社神道に関する知識から時局問題など御教授頂きました。また直階講習の時は違い、講話などの講義もあり、斎主として、また神社の代表としてこれから必要となる知識を御教授頂きました。特に法規の講義では現在の私たちを取り巻いている決して楽なことばかりとは言えない社会情勢をあらためて感じました。祭式の授業では、いつの間にか間違った作法をしていたりと、日頃からきちんととした作法を意識し、奉仕することの大切さを感じました。

今、奉務神社では、高齢化、少子化、過疎化、氏子数の減少など色々な問題に直面しておりますが、私達を支えて下さるのは講習会で学んだ知識や作法はもとより、講師の先生方や神社の先生方との繋がり、そして受講生との絆であると思っています。

最後になりましたが諸先生方、広島県神社庁の職員の皆様方、コロナ禍での二回目の開催とはいえ、日々ご苦労もあつたと思います。数々のご配慮を頂き、権正階講習会を無事に終えることが出来ましたこと深く感謝申し上げます。

私たちは先人達が大事に残してくれたものを必ず後世に伝えるため一生懸命に奉仕をしてまいります。どうか、これからも温かく見守つて頂くとともに、時には変わらぬご指導をどうぞよろしくお願ひいたします。

## 神職専門研修会（祭式・衣紋）を受講して

安芸支部 多家神社

権禰宜 飯田 航

の重要さを痛感したところであります。

講義Ⅱでは主に地鎮祭斎場の確認、次第に沿つた一人奉仕の実演などを交え、ご指導をいただきました。冒頭、福場先生のおつしやつ通り、凡そ各神職養成機関等では、大祭式を習うことはあつても地鎮祭などの雑祭を学ぶことはほぼないと黙ってお願意ではなないので、このような機会が出来たことを大変うれしく思います。また、地域差もある祭祀でもあるので、一つの基準となるものを学ぶことが出来た点、大きな糧となりました。

講義Ⅲでは袍の著装について、ご指導をいただきました。ここでは二つのグループに分かれ、一方が一人で著装するグループ、もう一方が衣紋者としてお方に著装するグループとなり、講義が進められました。私は一人で著装するグループで研修しましたが、多くとも年に数回しか著装することはないでの、大変良い機会となりました。

冒頭に申し上げたのですが、本研修は様々なことを復習することが出来る貴重な場となつておりますので、この度ご参加がかなわなかつた方も来年度にご参加を検討されてはいかがでしょうか。

最後になり、大変恐縮ですが、ご多忙の中、ご指導をいただきました講師の皆様をはじめ、ご協力をいただきました広島護國神社の皆様、広島県神社庁ご関係の皆様に感謝を申しあげます。

山県東支部 熊野新宮神社

権禰宜 小野遙平

## 権正階階位検定講習会を受講して



令和四年九月二十六日に、嚴島神社(野坂元明宮司)にて「大鳥居工事現場見学会」が行われた。

令和元年六月十七日から令和四年十一月まで行われている修復工事だが、足場を完全に撤去出来る見込みとなり、十月より足場の解体が始まる。本見学会は、県下神職及び同居家族を対象として、修復を終えた真新しい檜皮葺の大屋根を足場に上り、間近に見ることが出来る貴重な機会となつた。佐伯大竹支部からは十二名が集まり、防災用ヘルメットを被り見学した。

現在の大鳥居は明治八年に再建されたもので、平清盛の援助によつて建てられた鳥居を初代とする八代目と言われていたが、鎌倉期に社殿が焼失して再建された時の鳥居も含めると九代目にあたることが文献の見直しによつてわかつたという。東西に楠の自然木の主柱を置き、前後に杉の袖木一本ずつ計四本を配し、上下一段の袖貫で柱を繋いだ木造両部鳥居の形式となつてゐる。主柱は上部で大貫を通して繋ぎ、その上に島木・笠木を置いている。嚴島神社の場合には巨大なため島木・笠木は箱状に造られ、風などで倒れないように内部に石が入つてゐる。現場作業員曰く、その量は約七トン。すべて一度取り出し、洗い清めて戻したという。大鳥居の東西の主柱は楠の自然木だが、杉や松のように真っ直ぐに伸びる木ではなく、左右に曲がり、表面に大きな節や表皮が内側に入り込み、内部に空洞ができる。太さが足らない箇所や傷んでいるところは木を貼り足し、柱の海水に浸かるところは海虫による蝕害を受けたため、

笠木を置いている。嚴島神社の場合には巨大なため島木・笠木は箱状に造られ、風などで倒れないように内部に石が入つてゐる。現場作業員曰く、その量は約七トン。すべて一度取り出し、洗い清めて戻したという。大鳥居の東西の主柱は楠の自然木だが、杉や松のように真っ直ぐに伸びる木ではなく、左右に曲がり、表面に大きな節や表皮が内側に入り込み、内部に空洞ができる。太さが足らない箇所や傷んでいるところは木を貼り足し、柱の海水に浸かるところは海虫による蝕害を受けたため、

私にとって、今回初めて嚴島神社の大鳥居を近くで見る機会となつた。社殿からは何度か見たことはあり、その時に見た大鳥居も莊厳であったが、近くで見るとその莊嚴さはより一層増して感じ、歴史ある建造物の維持、修復がいかに技術や知識が必要なものであるということを再確認した。また、このような機会でないと見ることができないものとして、大鳥居の社殿側の扁額の付いていた場所に、「修理札」とも言われる札も見ることができた。大鳥居見学後の扁額の修復作業をしている小屋では、一对の扁額のうち社殿側扁額の裏には、以前行なわれた作業の内容が記された銅板があり、その工程が伺えた。このよう貴重なものを見ることができた本見学会は、参加者各々が神社の維持管理という観点からも得るものが多い機会となつたのではないかと思う。見学会を開催していただいた嚴島神社様をはじめ、関係者様には心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 嚴島神社大鳥居工事現場を見学して

佐伯大竹支部 速谷神社 権禰宣 香川匠

### シリーズ 神社の社紋について②

庁報編集委員会

始めて今上陛下御製が朗詠され、午前九時三〇分に第一部・式典が開催。奥副庁長の開会の辞から始まり、表彰式では神社序から二十一名、総代会から十八名に表彰状授与、また神社本庁統理から三名、広島県神社庁長から百十一名に感謝状が贈呈された。午前十一時三十分からは第二部・清興が開催。高屋町と比和町の神職によつて数百年伝承してきた比婆斎庭神楽保存会による『手草』、旧三上郡恵蘇郡で行われていた神職のみによつて舞われてきた三上神楽保存会による『御神(八幡之能)』が上演され、今回関係者大会は盛会のうちに幕を閉じた。

去る令和四年八月二十五日(木)、広島市中区加古町にある広島文化学園HBGホールにて、第六十六回広島県神社関係者大会が開催された。今年は二年ぶりの開催となり約七〇〇人の参加があつた。

始めに今上陛下御製が朗詠され、午前九時三〇分に第一部・式典が開催。奥副庁長の開会の辞から始まり、表彰式では神社序から二十一名、総代会から十八名に表彰状授与、また神社本庁統理から三名、広島県神社庁長から百十一名に感謝状が贈呈された。午前十一時三十分からは第二部・清興が開催。高屋町と比和町の神職によつて数百年伝承してきた比婆斎庭神楽保存会による『手草』、旧三上郡恵蘇郡で行われていた神職のみによつて舞われてきた三上神楽保存会による『御神(八幡之能)』が上演され、今回関係者大会は盛会のうちに幕を閉じた。

(池田憲明 通信員)



## 支部だより

### 「第六十六回広島県神社関係者大会」

### 因島瀬戸田支部 「しまなみビーチで小早のお清め神事」

### 安芸支部 「日浦山神社大鳥居竣工祭」

九月十一日(日)に尾道市因島大浜町しまなみビーチに於いて、因島水軍まつり実行委員会主催の新しく作った小早と物見櫓の清めの神事とお披露日の行事がありました。小早とは戦国時代の軍船の一種です。水軍まつりは例年八月の最終日曜日に開催され、大勢の団体が参加する小早レースで賑わいます。一般的の漕ぎ手は十四名です。水軍まつりは新型コロナウィルスの影響により本年も中止となりました(三年連続の中止)。この間に関係者の努力の結果、約二千万円の資金を調達しました。当時は、新艇と櫓を神前に据え置き、清めの神事と安全祈願祭を大浜町鎮座の齋島神社の河野 shinや宮司が斎行政しました。

因島水軍まつり実行委員会の柏原功委員長は、「三年間、悔しい思いでいっぱいでした。今日、清めの神事とお披露目ができ、来年は水軍まつりが必ず実施できると確信が持てました。皆さん来年は大いに楽しみましょう」と挨拶されていました。

(河野 shinや 通信員)



九月十一日(日)に尾道市因島大浜町しまなみビーチに於いて、因島水軍まつり実行委員会主催の新しく作った小早と物見櫓の清めの神事とお披露日の行事がありました。小早とは戦国時代の軍船の一種です。水軍まつりは例年八月の最終日曜日に開催され、大勢の団体が参加する小早レースで賑わいます。一般的の漕ぎ手は十四名です。水軍まつりは新型コロナウィルスの影響により本年も中止となりました(三年連続の中止)。この間に関係者の努力の結果、約二千万円の資金を調達しました。当時は、新艇と櫓を神前に据え置き、清めの神事と安全祈願祭を大浜町鎮座の齋島神社の河野 shinや宮司が斎行政しました。

被災した鳥居は、氏子崇敬者の手厚い支援を受け、再建された。コロナ禍の影響もあり参加人数をしぼりながらも、令和三年十二月二十一日に竣工祭が挙行された。

斎木宮司は、「多くの方の温かいお気持ちによる神社のシンボルでもある鳥居の再建は、これから復興の大きな第一歩になるのだと思います。」と語った。

九十年前にも大雨被害に遭い、土砂で木至公宮司(斎木宮司)は、平成二十年西日本豪雨により甚大な被害を蒙った。山筋からの土砂で、筋合にあつた神樂殿や手水舎、鳥居等は押し流された。幸いにも手前まで地面は抉られたが本殿は難を逃れた。

海田町畠二丁目鎮座の日浦山神社(斎木至公宮司)は、平成二十年西日本豪雨により甚大な被害を蒙った。山筋からの土砂で、筋合にあつた神樂殿や手水舎、鳥居等は押し流された。幸いにも手前まで地面は抉られたが本殿は難を逃れた。

海田町畠二丁目鎮座の日浦山神社(斎木至公宮司)は、平成二十年西日本豪雨により甚大な被害を蒙った。山筋からの土砂で、筋合にあつた神樂殿や手水舎、鳥居等は押し流された。幸いにも手前まで地面は抉られたが本殿は難を逃れた。

被災した鳥居は、氏子崇敬者の手厚い支援を受け、再建された。コロナ禍の影響もあり参加人数をしぼりながらも、令和三年十二月二十一日に竣工祭が挙行された。

斎木宮司は、「多くの方の温かいお気持ちによる神社のシンボルでもある鳥居の再建は、これから復興の大きな第一歩になるのだと思います。」と語った。

九十年前にも大雨被害に遭い、土砂で木至公宮司(斎木宮司)は、平成二十年西日本豪雨により甚大な被害を蒙った。山筋からの土砂で、筋合にあつた神樂殿や手水舎、鳥居等は押し流された。幸いにも手前まで地面は抉られたが本殿は難を逃れた。



始めて今上陛下御製が朗詠され、午前九時三〇分に第一部・式典が開催。奥副庁長の開会の辞から始まり、表彰式では神社序から二十一名、総代会から十八名に表彰状授与、また神社本庁統理から三名、広島県神社庁長から百十一名に感謝状が贈呈された。午前十一時三十分からは第二部・清興が開催。高屋町と比和町の神職によつて数百年伝承してきた比婆斎庭神楽保存会による『手草』、旧三上郡恵蘇郡で行われていた神職のみによつて舞われてきた三上神楽保存会による『御神(八幡之能)』が上演され、今回関係者大会は盛会のうちに幕を閉じた。

(池田憲明 通信員)



始めて今上陛下御製が朗詠され、午前九時三〇分に第一部・式典が開催。奥副庁長の開会の辞から始まり、表彰式では神社序から二十一名、総代会から十八名に表彰状授与、また神社本庁統理から三名、広島県神社庁長から百十一名に感謝状が贈呈された。午前十一時三十分からは第二部・清興が開催。高屋町と比和町の神職によつて数百年伝承してきた比婆斎庭神楽保存会による『手草』、旧三上郡恵蘇郡で行われていた神職のみによつて舞われてきた三上神楽保存会による『御神(八幡之能)』が上演され、今回関係者大会は盛会のうちに幕を閉じた。

(河野 shinや 通信員)



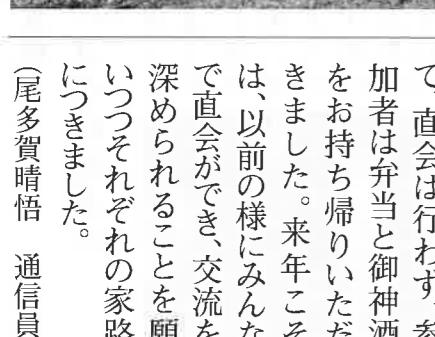
始めて今上陛下御製が朗詠され、午前九時三〇分に第一部・式典が開催。奥副庁長の開会の辞から始まり、表彰式では神社序から二十一名、総代会から十八名に表彰状授与、また神社本庁統理から三名、広島県神社庁長から百十一名に感謝状が贈呈された。午前十一時三十分からは第二部・清興が開催。高屋町と比和町の神職によつて数百年伝承してきた比婆斎庭神楽保存会による『手草』、旧三上郡恵蘇郡で行われていた神職のみによつて舞われてきた三上神楽保存会による『御神(八幡之能)』が上演され、今回関係者大会は盛会のうちに幕を閉じた。

(河野 shinや 通信員)



始めて今上陛下御製が朗詠され、午前九時三〇分に第一部・式典が開催。奥副庁長の開会の辞から始まり、表彰式では神社序から二十一名、総代会から十八名に表彰状授与、また神社本庁統理から三名、広島県神社庁長から百十一名に感謝状が贈呈された。午前十一時三十分からは第二部・清興が開催。高屋町と比和町の神職によつて数百年伝承してきた比婆斎庭神楽保存会による『手草』、旧三上郡恵蘇郡で行われていた神職のみによつて舞われてきた三上神楽保存会による『御神(八幡之能)』が上演され、今回関係者大会は盛会のうちに幕を閉じた。

(河野 shinや 通信員)



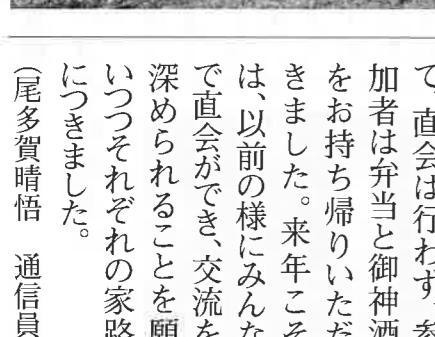
始めて今上陛下御製が朗詠され、午前九時三〇分に第一部・式典が開催。奥副庁長の開会の辞から始まり、表彰式では神社序から二十一名、総代会から十八名に表彰状授与、また神社本庁統理から三名、広島県神社庁長から百十一名に感謝状が贈呈された。午前十一時三十分からは第二部・清興が開催。高屋町と比和町の神職によつて数百年伝承してきた比婆斎庭神楽保存会による『手草』、旧三上郡恵蘇郡で行われていた神職のみによつて舞われてきた三上神楽保存会による『御神(八幡之能)』が上演され、今回関係者大会は盛会のうちに幕を閉じた。

(河野 shinや 通信員)



始めて今上陛下御製が朗詠され、午前九時三〇分に第一部・式典が開催。奥副庁長の開会の辞から始まり、表彰式では神社序から二十一名、総代会から十八名に表彰状授与、また神社本庁統理から三名、広島県神社庁長から百十一名に感謝状が贈呈された。午前十一時三十分からは第二部・清興が開催。高屋町と比和町の神職によつて数百年伝承してきた比婆斎庭神楽保存会による『手草』、旧三上郡恵蘇郡で行われていた神職のみによつて舞われてきた三上神楽保存会による『御神(八幡之能)』が上演され、今回関係者大会は盛会のうちに幕を閉じた。

(河野 shinや 通信員)



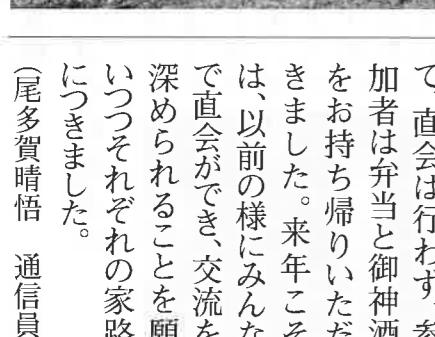
始めて今上陛下御製が朗詠され、午前九時三〇分に第一部・式典が開催。奥副庁長の開会の辞から始まり、表彰式では神社序から二十一名、総代会から十八名に表彰状授与、また神社本庁統理から三名、広島県神社庁長から百十一名に感謝状が贈呈された。午前十一時三十分からは第二部・清興が開催。高屋町と比和町の神職によつて数百年伝承してきた比婆斎庭神楽保存会による『手草』、旧三上郡恵蘇郡で行われていた神職のみによつて舞われてきた三上神楽保存会による『御神(八幡之能)』が上演され、今回関係者大会は盛会のうちに幕を閉じた。

(河野 shinや 通信員)



始めて今上陛下御製が朗詠され、午前九時三〇分に第一部・式典が開催。奥副庁長の開会の辞から始まり、表彰式では神社序から二十一名、総代会から十八名に表彰状授与、また神社本庁統理から三名、広島県神社庁長から百十一名に感謝状が贈呈された。午前十一時三十分からは第二部・清興が開催。高屋町と比和町の神職によつて数百年伝承してきた比婆斎庭神楽保存会による『手草』、旧三上郡恵蘇郡で行われていた神職のみによつて舞われてきた三上神楽保存会による『御神(八幡之能)』が上演され、今回関係者大会は盛会のうちに幕を閉じた。

(河野 shinや 通信員)



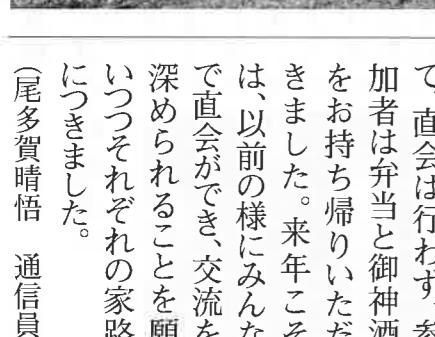
始めて今上陛下御製が朗詠され、午前九時三〇分に第一部・式典が開催。奥副庁長の開会の辞から始まり、表彰式では神社序から二十一名、総代会から十八名に表彰状授与、また神社本庁統理から三名、広島県神社庁長から百十一名に感謝状が贈呈された。午前十一時三十分からは第二部・清興が開催。高屋町と比和町の神職によつて数百年伝承してきた比婆斎庭神楽保存会による『手草』、旧三上郡恵蘇郡で行われていた神職のみによつて舞われてきた三上神楽保存会による『御神(八幡之能)』が上演され、今回関係者大会は盛会のうちに幕を閉じた。

(河野 shinや 通信員)



始めて今上陛下御製が朗詠され、午前九時三〇分に第一部・式典が開催。奥副庁長の開会の辞から始まり、表彰式では神社序から二十一名、総代会から十八名に表彰状授与、また神社本庁統理から三名、広島県神社庁長から百十一名に感謝状が贈呈された。午前十一時三十分からは第二部・清興が開催。高屋町と比和町の神職によつて数百年伝承してきた比婆斎庭神楽保存会による『手草』、旧三上郡恵蘇郡で行われていた神職のみによつて舞われてきた三上神楽保存会による『御神(八幡之能)』が上演され、今回関係者大会は盛会のうちに幕を閉じた。

(河野 shinや 通信員)



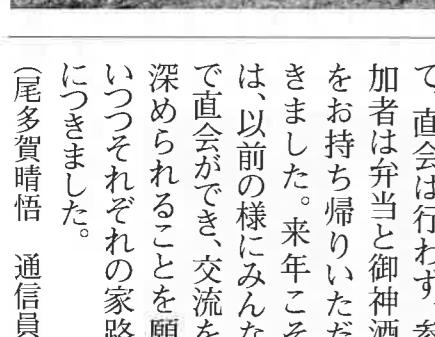
始めて今上陛下御製が朗詠され、午前九時三〇分に第一部・式典が開催。奥副庁長の開会の辞から始まり、表彰式では神社序から二十一名、総代会から十八名に表彰状授与、また神社本庁統理から三名、広島県神社庁長から百十一名に感謝状が贈呈された。午前十一時三十分からは第二部・清興が開催。高屋町と比和町の神職によつて数百年伝承してきた比婆斎庭神楽保存会による『手草』、旧三上郡恵蘇郡で行われていた神職のみによつて舞われてきた三上神楽保存会による『御神(八幡之能)』が上演され、今回関係者大会は盛会のうちに幕を閉じた。

(河野 shinや 通信員)



始めて今上陛下御製が朗詠され、午前九時三〇分に第一部・式典が開催。奥副庁長の開会の辞から始まり、表彰式では神社序から二十一名、総代会から十八名に表彰状授与、また神社本庁統理から三名、広島県神社庁長から百十一名に感謝状が贈呈された。午前十一時三十分からは第二部・清興が開催。高屋町と比和町の神職によつて数百年伝承してきた比婆斎庭神楽保存会による『手草』、旧三上郡恵蘇郡で行われていた神職のみによつて舞われてきた三上神楽保存会による『御神(八幡之能)』が上演され、今回関係者大会は盛会のうちに幕を閉じた。

(河野 shinや 通信員)



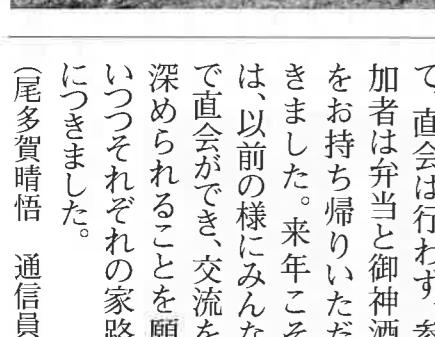
始めて今上陛下御製が朗詠され、午前九時三〇分に第一部・式典が開催。奥副庁長の開会の辞から始まり、表彰式では神社序から二十一名、総代会から十八名に表彰状授与、また神社本庁統理から三名、広島県神社庁長から百十一名に感謝状が贈呈された。午前十一時三十分からは第二部・清興が開催。高屋町と比和町の神職によつて数百年伝承してきた比婆斎庭神楽保存会による『手草』、旧三上郡恵蘇郡で行われていた神職のみによつて舞われてきた三上神楽保存会による『御神(八幡之能)』が上演され、今回関係者大会は盛会のうちに幕を閉じた。

(河野 shinや 通信員)



始めて今上陛下御製が朗詠され、午前九時三〇分に第一部・式典が開催。奥副庁長の開会の辞から始まり、表彰式では神社序から二十一名、総代会から十八名に表彰状授与、また神社本庁統理から三名、広島県神社庁長から百十一名に感謝状が贈呈された。午前十一時三十分からは第二部・清興が開催。高屋町と比和町の神職によつて数百年伝承してきた比婆斎庭神楽保存会による『手草』、旧三上郡恵蘇郡で行われていた神職のみによつて舞われてきた三上神楽保存会による『御神(八幡之能)』が上演され、今回関係者大会は盛会のうちに幕を閉じた。

(河野 shinや 通信員)



始めて今上陛下御製が朗詠され、午前九時三〇分に第一部・式典が開催。奥副庁長の開会の辞から始まり、表彰式では神社序から二十一名、総代会から十八名に表彰状授与、また神社本庁統理から三名、広島県神社庁長から百十一名に感謝状が贈呈された。午前十一時三十分からは第二部・清興が開催。高屋町と比和町の神職によつて数百年伝承してきた比婆斎庭神楽保存会による『手草』、旧三上郡恵蘇郡で行われていた神職のみによつて舞われてきた三上神楽保存会による『御神(八幡之能)』が上演され、今回関係者大会は盛会のうちに幕を閉じた。

(河野 shinや 通信員)



始めて今上陛下御製が朗詠され、午前九時三〇分に第一部・式典が開催。奥副庁長の開会の辞から始まり、表彰式では神社序から二十一名、総代会から十八名に表彰状授与、



令和五年の八月六日～八日に二泊三日で第十三回の神社スカウト全国大会が執り行われます。この全国大会は昭和三十六年から始まり五年ごとに開催されます。全国の神社で活動しているボーカウトやカブスカウト・ガールスカウトが伊勢の地に集まりこれまで修得した能力や技能を發揮し、お互いの友情を深めるとともに日本人としての誇りを培う場とします。

残念ながら今年は新型コロナウイルスの拡大防止の為、会場（民宿や旅館に泊まる方法）のみの開催となりました。プログラムは神宮の周辺や皇學館大学で行なわれます。また、隊旗やプラカードをもつて内宮へ参拝行進をします。大集会では皇學館大学の体育館に集まり、各ブロックで出し物を披露します。ミニライブもあります。

ボーカウト十五団（吉浦八幡神社）も

三回連続で参加していま

す。今年の大会にも参加しま

す。皆様の関係されるカブス

カウト・ボーカウト年代

（小学一年生～中学三年生）

のお子さまでこの大会に参加

を希望されるかたはあります。

登録をして伊勢

キヤン・ボリーへ行きましょう。

詳しくは吉浦八幡神社までお問い合わせください。

## 支部より

## 「伊勢キヤン・ボリー」

佐伯大竹支部

## 「氏神と山の神の秋祭り」

（横田光則 通信員）

（瀬戸一樹 通信員）

編集後記

新年明けましておめでとうございます。  
庁報「二葉」149号にご寄稿下さいました皆様に厚く御礼申し上げます。  
昨年は思いもかけぬ世界情勢となり、不安定な世情が日々の生活にも影響をもたらしました。  
卯年の本年、「波乗り兔」の如く荒波を乗り越え、平穏で活気のある年となるよう祈るばかりです。  
今年もお役に立つ情報が掲載できるよう頑張りますのでよろしくお願い致します。

◆表紙写真提供：事務局 協力：嚴島神社

## 福山支部 〔念願の舞姫による舞の奉奏が実現〕

## 三次支部 〔ちいさな結婚式〕

## 山県東支部 〔北広島町 万徳院跡〕

## 安芸高田支部 〔毛利元就公没後四百五十一年墓前祭〕

本務社である塩崎神社と、兼務社である川口八幡神社の「秋の例大祭」神事にて、舞姫による「浦安の舞」を奉唱いたしました。かね

てより、「浦安の舞」などの神前神樂を、祭典にて奉奏したいと願つており、この度、舞姫を氏子総代より選出たまわり、小学六年生の女兒二名が舞姫として、「奉仕いたなく事がかないました。

広島県神社庁の舞の講習にて、横田先生を中心には、舞方だけではなく、神さまと向き合う姿勢、御神前にて舞を舞う事の本質を学び感銘を受けました。また府中良神社の瀬瀬宮司のご協力もあり、この度、舞姫二名は鍛錬を重ね、見事な舞を奉奏いたしました。

秋祭りでは、ここ数年コロナの影響もあり、前夜祭でのお神樂奉納、神輿の巡行など神さまと氏子崇敬者の皆様とにお喜びいただき、共に楽しむ行事等が中止となり、寂しいお祭りが続きましたが、神さまと御心が一つになる良いお祭りとなりました。



秋が深くなつた十月吉日に、三次市西河内町に鎮座します天津神社（小原広教宮司）の社殿にて、ご年配の総代さんでも

記憶がないという結婚式が執り行われました。この地域の出身者の方々が結婚式を挙げるとのことと、宮司さんや総代さんたちと相談をし、それならば地域の神社で結婚式を行いましょうということとなりました。

天津神社は、西河内町の氏神様を祀る小さなお社で、地域の方々が大切に守つておられる神社です。当日も多くの地域の方々が見届け人となり、大変賑やかな結婚式となりました。地域の方々が新たに門出を迎えたお一人を祝福し、沢山の御友人たちが一人を盛り上げ、心温まる大変に良い結婚式となりました。過疎化の進む地域の神社での小さな結婚式でしたが、結婚式場などで行なう式とは違い、昔の各地域で行われていた結婚式とはこんな雰囲気だったのではないかと感じた一日となりました。

二（一五七四）年頃にこの地域に勢力を広げていた吉川元長（毛利元就の孫）が建立した寺院の跡です。当初は山中の谷あいにひつそりと建つ、言わば別邸でしたが、元長の死後、弟の広家が吉川氏の菩提寺としてふさわしい寺院を求め、長い参道や石垣・庭園・建物の増築などの大

跡であり、天正二（一五七四）年頃に吉川元長（毛利元就の孫）が建立した寺院の跡です。しかし、慶長五（一六〇〇）年に吉川氏が現在の山口県岩国市へ移されると、万徳院もこれに従い、建物ごと改修を行いました。

しかしながら、慶長五（一六〇〇）年に吉川氏が現在の山口県岩国市へ移転しました。平成三（一九九一）年から始まつた発掘調査により、本堂跡・庫裏跡・風呂屋跡・水道施設・庭園跡・炭窯跡・法華經版木・竹製裏目物差など多くの遺構や遺物が見つかって、同時に、寺院の建立で発揮された人々の様々な知恵や技術が見えてきました。その後、町教委によりダンスホールなどが整備され、現在は歴史公園として公開されています。



万徳院跡は、これまで軽視されがちだつた地域の民衆の歴史と文化を今まで、総代さんでも欠くことなく伝えるために欠くことのできない遺跡であり、天正

秋が深くなつた十月吉日に、三次市西河内町に鎮座します天津神社（小原広教宮司）の社殿にて、ご年配の総代さんでも

記憶がないという結婚式が執り行われました。この地域の出身者の方々が結婚式を挙げるとのことと、宮司さんや総代さんたちと相談をし、それならば地域の神社で結婚式を行いましょうということとなりました。

天津神社は、西河内町の氏神様を祀る小さなお社で、地域の方々が大切に守つておられる神社です。当日も多くの地域の方々が見届け人となり、大変賑やかな結婚式となりました。地域の方々が新たに門出を迎えたお一人を祝福し、沢

山の御友人たちが一人を盛り上げ、心温まる大変に良い結婚式となりました。過疎化の進む地域の神社での小さな結婚式でしたが、結婚式場などで行なう式とは違い、昔の各地域で行われていた結婚式とはこんな雰囲気だったのではないかと感じた一日となりました。

二（一五七四）年頃にこの地域に勢力を広げていた吉川元長（毛利元就の孫）が建立した寺院の跡です。しかし、慶長五（一六〇〇）年に吉川氏が現在の山口県岩国市へ移されると、万徳院もこれに従い、建物ごと改修を行いました。

しかしながら、慶長五（一六〇〇）年に吉川氏が現在の山口県岩国市へ移転しました。平成三（一九九一）年から始まつた発掘調査により、本堂跡・庫裏跡・風呂屋跡・水道施設・庭園跡・炭窯跡・法華經版木・竹製裏目物差など多くの遺構や遺物が見つかって、同時に、寺院の建立で発揮された人々の様々な知恵や技術が見えてきました。その後、町教委によりダンスホールなどが整備され、現在は歴史公園として公開されています。



万徳院跡は、これまで軽視されがちだつた地域の民衆の歴史と文化を今まで、総代さんでも

記憶がないという結婚式が執り行われました。この地域の出身者の方々が結婚式を挙げるとのことと、宮司さんや総代さんたちと相談をし、それならば地域の神社で結婚式を行いましょうということとなりました。

天津神社は、西河内町の氏神様を祀る小さなお社で、地域の方々が大切に守つておられる神社です。当日も多くの地域の方々が見届け人となり、大変賑やかな結婚式となりました。地域の方々が新たに門出を迎えたお一人を祝福し、沢

山の御友人たちが一人を盛り上げ、心温まる大変に良い結婚式となりました。過疎化の進む地域の神社での小さな結婚式でしたが、結婚式場などで行なう式とは違い、昔の各地域で行われていた結婚式とはこんな雰囲気だったのではないかと感じた一日となりました。

二（一五七四）年頃にこの地域に勢力を広げていた吉川元長（毛利元就の孫）が建立した寺院の跡です。しかし、慶長五（一六〇〇）年に吉川氏が現在の山口県岩国市へ移されると、万徳院もこれに従い、建物ごと改修を行いました。

しかしながら、慶長五（一六〇〇）年に吉川氏が現在の山口県岩国市へ移転しました。平成三（一九九一）年から始まつた発掘調査により、本堂跡・庫裏跡・風呂屋跡・水道施設・庭園跡・炭窯跡・法華經版木・竹製裏目物差など多くの遺構や遺物が見つかって、同時に、寺院の建立で発揮された人々の様々な知恵や技術が見えてきました。その後、町教委によりダンスホールなどが整備され、現在は歴史公園として公開されています。

二（一五七四）年頃にこの地域に勢力を広げていた吉川元長（毛利元就の孫）が建立した寺院の跡です。しかし、慶長五（一六〇〇）年に吉川氏が現在の山口県岩国市へ移されると、万徳院もこれに従い、建物ごと改修を行いました。

しかしながら、慶長五（一六〇〇）年に吉川氏が現在の山口県岩国市へ移転しました。平成三（一九九一）年から始まつた発掘調査により、本堂跡・庫裏跡・風呂屋跡・水道施設・庭園跡・炭窯跡・法華經版木・竹製裏目物差など多くの遺構や遺物が見つかって、同時に、寺院の建立で発揮された人々の様々な知恵や技術が見えてきました。その後、町教委によりダンスホールなどが整備され、現在は歴史公園として公開されています。



万徳院跡は、これまで軽視されがちだつた地域の民衆の歴史と文化を今まで、総代さんでも

記憶がないという結婚式が執り行われました。この地域の出身者の方々が結婚式を挙げるとのことと、宮司さんや総代さんたちと相談をし、それならば地域の神社で結婚式を行いましょうということとなりました。

天津神社は、西河内町の氏神様を祀る小さなお社で、地域の方々が大切に守つておられる神社です。当日も多くの地域の方々が見届け人となり、大変賑やかな結婚式となりました。地域の方々が新たに門出を迎えたお一人を祝福し、沢

山の御友人たちが一人を盛り上げ、心温まる大変に良い結婚式となりました。過疎化の進む地域の神社での小さな結婚式でしたが、結婚式場などで行なう式とは違い、昔の各地域で行われていた結婚式とはこんな雰囲気だったのではないかと感じた一日となりました。

二（一五七四）年頃にこの地域に勢力を広げていた吉川元長（毛利元就の孫）が建立した寺院の跡です。しかし、慶長五（一六〇〇）年に吉川氏が現在の山口県岩国市へ移されると、万徳院もこれに従い、建物ごと改修を行いました。

しかしながら、慶長五（一六〇〇）年に吉川氏が現在の山口県岩国市へ移転しました。平成三（一九九一）年から始まつた発掘調査により、本堂跡・庫裏跡・風呂屋跡・水道施設・庭園跡・炭窯跡・法華經版木・竹製裏目物差など多くの遺構や遺物が見つかって、同時に、寺院の建立で発揮された人々の様々な知恵や技術が見えてきました。その後、町教委によりダンスホールなどが整備され、現在は歴史公園として公開されています。

二（一五七四）年頃にこの地域に勢力を広げていた吉川元長（毛利元就の孫）が建立した寺院の跡です。しかし、慶長五（一六〇〇）年に吉川氏が現在の山口県岩国市へ移されると、万徳院もこれに従い、建物ごと改修を行いました。

しかしながら、慶長五（一六〇〇）年に吉川氏が現在の山口県岩国市へ移転しました。平成三（一九九一）年から始まつた発掘調査により、本堂跡・庫裏跡・風呂屋跡・水道施設・庭園跡・炭窯跡・法華經版木・竹製裏目物差など多くの遺構や遺物が見つかって、同時に、寺院の建立で発揮された人々の様々な知恵や技術が見えてきました。その後、町教委によりダンスホールなどが整備され、現在は歴史公園として公開されています。



## 山県西支部 「流鏑馬」



流鏑馬神事は十月の第一日曜日、八幡神社（森脇宗彦宮司）の秋の例祭に斎行され、流鏑馬は神社から約百メートル東にある専用の馬場で行われる。伝承によれば、この地区の小坂城を拠点とする小坂氏が治めていた永享年間（一四一九～四一年）には既に行われていたとされる。その後、江戸時代に入つても盛んに行われており、文政二年（一八一九）の『国郡志御用二付けしらべ書出帖』には、「八幡宮ヨリ一町余束ノ方ニ馬場御座候、近村ヨリ見物ニ罷出殊、外賑敷祭礼ニ御座候」とあり、神事の賑やかな様子が記されている。

流鏑馬神事は、神前の儀・社庭の儀・御神幸・御旅所の儀・射手の儀・還神幸の儀・社庭帰還の儀と言う七つの儀式からなっている。

これらの儀式は、総奉行・日記役・馬場元奉行・馬場末奉行・的奉行・射手など、昔ながらの装束を着た諸役で進められる。

### 射手の儀では、一の射手・二の射手が順番に、直線距離百四十メートル、幅六メートルの馬場に設けられた、一の

射手の儀では、一の射手・二の射手が順番に、直線距離百四十メートル、幅六メートルの馬場に設けられた、一の

的・二の的・三の的を射ながら駆け抜ける。各々の射手は三回ずつ馬場を疾走する。

使用年代は不明ではあるが、流鏑馬で使用した和鞍・背懸・轡など

の馬具、弓・矢などの武具、陣羽織、指貫・陣笠なども神社に所蔵されている。

（梶原武彦 通信員）



第八ブロック研修会を比婆西支部が主管支部として、令和四年九月一日に高野町ファーマーズマーケットで開催した。コロナの影響により三年越しの開催となつたが、多数の参加者にご協力を感謝申し上げる。

研修Ⅰでは、県神社庁委嘱講師杉森神社宮司の岡田光統先生による「過疎活性化に向けて」と題した講演であった。先生の生き方や豊かな実践例のお話に、元気と多くの活性化ヒントを頂いた。

研修Ⅱでは、児玉朝光支部長が比婆西支部比婆斎庭神楽の演目「芝佐」復活について解説し、神楽の実演が披露された。半世紀以上舞われていない長剣の舞を復活させたい思いが、島根県飯石郡飯南町の「奥飯石神樂」（昭和三十六年「島根県指定文化財 奥飯石神職神樂」）に辿り着いた。同じ出雲系の神楽であるとは言え、演目が

同じ・台詞も似た表現があることに大変驚いた。神楽見聞

学の折に能本やDVD等も頂き、長剣の振り方や舞の構成等を参考に能本の完成に努めた。拙い指導、不充分な練習での披露ではあつたが、支部内の若い神職に協力してもらい、当日の実演に漕ぎ着ける事が出来た事にとても感謝している。

若い神職には、神事でもある比婆斎庭神楽を継承・保存する後継者として、誇りと使命と自覚を持って取り組んで欲しいと切に願つてている。



## 比婆西支部 「第八ブロック研修会」